

久留米シティプラザ

第四回 喜多流「久留米座」能

能

箴

狩野祐一

舞囃子
高砂
狩野了一

◆ 令和2年1月25日(土)

午後3時開演(午後2時30分開場)

◆ 久留米シティプラザ「久留米座」

福岡県久留米市六ツ門町8-1

◆ 入場料 / 指定席 前売り ¥4,000 (当日 ¥4,500) 自由席 ¥3,000

◆ 問い合わせ / 三瀧文化協会(喜田) TEL. 09-12-64-4541 / 携帯 090-8298-9987
喜秀会事務局(狩野) TEL. 096-325-6686 / FAX 096-325-6690

主催 / 久留米座演能実行委員会

共催 / 久留米連合文化会・久留米喜秀会

後援 / 久留米市・久留米市教育委員会・(公財)福岡県教育文化奨学財団・三瀧文化協会・福岡県喜多流教授教士会・久留米喜多会

番組

15:00

〔解説〕 大島衣恵

舞囃子

高砂 狩野了一

大鼓 白坂 保行 太鼓 田中 達
小鼓 古田 寛二郎 笛 浦 政徳

西国の僧が都行く途中、摂津の国、生田川のあたりに着きます。そこで咲き誇る梅に気づき、僧が眺めていたところ、一人の男が通りかかります。旅僧が男に、梅の名を尋ねると、男は「瓶(えびら)の梅」と呼ばれていると答えます。なおも旅僧は瓶の梅の名の由来を尋ねます。すると男は、昔、生田川周辺で源平の合戦があり、梶原源平(かじわらのげんだ)が梅の花の枝を瓶(えびら)「矢を入れて携帯する道具」に挿して重戦した、それが由来だと教え、源平の合戦の様子をつぶさに語り始めます。やがて夕刻になり、僧が一夜の宿を請うと、男は景季の亡霊であると正体を明かし、花の木陰に宿をとるようにといい、消えます。〔中入〕
夜半に僧が梅の木陰で休んでいると、扉に梅を挿した若武者が現れます。僧が誰かと問うと景季の霊だと答えます。景季の霊は、修羅道の戦いに駆られる様子を見せます。なおも一谷の合戦で瓶に梅の枝を挿し、先駆けの功名を得ようと、敵に向かい、秘術を尽くして戦う場面を見せるうちに夜が明けます。僧の夢の中、景季の霊は眼を盲げ、供養を頼んで消えていきます。みどころ
「八島」「田村」とともに、勝修羅物と呼ばれる能です。物語は源平が覇権を争った平安時代の末期のこと、主人公の梶原源平は源氏方の武将で、源頼朝に重用された梶原平三景時の嫡男です。多くの合戦で、若武者ながら父とも重戦し、武名を上げています。みずみずしい若武者と盛りつめた花をつけた梅の枝、その取り合わせは、血みどろの凄惨な戦場の場であるからこそ、際立って美しく輝く美を感じさせます。昔の侍はただ、戦場に没頭する武骨なだけの存在ではありません。和歌や管絃に秀でる者もあり、風雅な心を解し、美への感受性も高かったようです。もちろん粗野な者たちもいたでしょうが、武将の位にある者たちは深い教養と独特の美学を持っていました。この能でも、そういった侍の美学が随分深く描写されています。
また一方で、歴史に残る合戦の、勇猛で奇烈な戦闘シーンの描写もあり、全体的に生き生きとした躍動感を楽しめる曲です。

瓶 あらすじ

高砂は、室町以来現在に至るまで、能の代表的な祝言曲として、広く人々に親しまれてきました。能を見たことがない人でも、「高砂」の名を一度くらいは耳に入れる機会があるでしょう。たとえば婚礼の席で、この曲から取られた「高砂やこの浦舟に帆をあけて」といった謡を聞いたことがあると思います。
「高砂」では、松が作品の中で重要な役割を果たしています。松は、古来、神が宿る木とされ、常緑なところから「千歳」とも呼ばれます。また、雌雄の別があり、夫婦を連想させます。長寿や老夫婦の睦まじさを称えるとともに、松の長生のためたさを和歌の道に久しい繁栄になぞらえ、美しい詞章と、清々しい所作、舞いとで構成された名曲です。
舞囃子とは、能の主要な舞どころの一部分を数付舞姿にて舞う上演形式。地謡と囃子を伴って原則的にはシテ一人で舞うものです。

高砂 あらすじ

高砂は、室町以来現在に至るまで、能の代表的な祝言曲として、広く人々に親しまれてきました。能を見たことがない人でも、「高砂」の名を一度くらいは耳に入れる機会があるでしょう。たとえば婚礼の席で、この曲から取られた「高砂やこの浦舟に帆をあけて」といった謡を聞いたことがあると思います。
「高砂」では、松が作品の中で重要な役割を果たしています。松は、古来、神が宿る木とされ、常緑なところから「千歳」とも呼ばれます。また、雌雄の別があり、夫婦を連想させます。長寿や老夫婦の睦まじさを称えるとともに、松の長生のためたさを和歌の道に久しい繁栄になぞらえ、美しい詞章と、清々しい所作、舞いとで構成された名曲です。

【会場案内図】



15:30

瓶

後シテ(梶原源平の霊) 狩野祐一
前シテ(重人)

能

ワキ(権僧) 大日方 寛
アイ(生田の重人) 吉住 謙

大鼓 白坂 保行 笛 浦 政徳
小鼓 古田 寛二郎

後見

波辺 康喜
大島 衣恵

地謡

喜田 一博 大島 輝久
井上 勝晴 内田 成信
北原 浩吉 狩野 了一
石橋 荒鷲 栗谷 克雄
山本 芳幸

附 祝言

終演予定4時45分頃

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

〒830-0031
福岡県久留米市六ツ門町8-1
TEL 0942-363000